

## 23春闘の現局面に係る共同声明

### — 大幅賃上げをはじめ諸要求実現へ、港湾産別の団結力を発揮しよう —

港湾労働者の23春闘要求に込めた切実な思いにも拘らず、3月15日に開催した第2回中央港湾団交において、日港協は「港や企業毎に事情が異なるので困難」とする回答に示されるように、産別交渉それ自体を否定する姿勢を示した。また、政府が進める適正な料金確保や必要な料金改定の施策について、「船社に文書要請することを検討している」と回答し、大幅賃上げや労働条件改善に必要な原資の確保への取り組みが大幅に遅れている実情を露にした。これは「次年度も継続する」と確認した22春闘協定すら履行していない、極めて不誠実なものと言わざるを得ない。

組合側は、日港協の回答を厳しく批判し、再考を求め3月28日に予定している第3回中央港湾団交での修正回答を強く求めた。しかし、事態がこのまま推移するのであれば23春闘での大きな前進は図れない。すでに、大手企業では満額回答、30数年ぶりの高額妥結などの報道があるものの、中小企業の先行きは見えていない。

港湾を利用して莫大な利益を上げているユーザーには港湾労働者にその一部を還元する社会的責任があるし、その余力も十分すぎるほどある。政府もまた、労務コストの上昇分を適正料金で担保することを強く推進しており、とりわけ、物流関係事業にその実効ある対応を求め、そのための監視体制の強化を行っている。

#### 組合員、仲間の皆さん！

ユーザーの港湾への利益還元も、政府の施策推進も自動的に私たちの手に乗るものではありません。労働組合のたたかいが不可欠です。今一度、港湾産別の団結力と行動力が求められています。このことなくして23春闘の前進はありません。

23春闘は、いよいよ重要な局面を迎えようとしています。職場・地域の仲間の皆さんの産別に結集した力こそが厳しい状況を開拓していく源であり、私たちは、皆さんの団結力を背景に、大幅賃上げ、魅力ある港湾労働の確立めざす23春闘の前進のために全力を挙げる決意を固めています。どうか、この思いを共有して頂き、力を合わせて、要求実現に向かって力強く前進することを心より訴えます。

以上

2023年3月17日

全国港湾労働組合連合会(全国港湾)

中央執行委員長 真島勝重

全日本港湾運輸労働組合同盟(港運同盟)

会長 日吉正博